

平成17年12月定例会会議録（第3号）

平成17年12月9日 金曜日 午前10時00分開議

大 沼 久 議 長 蒲 生 光 男 副議長

出席議員（21名）

1番	我 妻	昇	議員	2番	内 谷	重 治	議員
3番	大 道 寺	信	議員	4番	谷 口	栄 子	議員
5番	佐々木	謙 二	議員	6番	安 部	隆	議員
7番	町 田	義 昭	議員	8番	鳥 谷	政 一	議員
9番	蒲 生	光 男	議員	10番	渋 谷	佐 輔	議員
11番	高 橋	孝 夫	議員	12番	鈴 木	武 次	議員
13番	小 関	勝 助	議員	14番	鈴 木	良 雄	議員
15番	鈴 木	小 市	議員	16番	藤 原	民 夫	議員
17番	蒲 生	吉 夫	議員	18番	佐々木	榮 七	議員
19番	島 田	友 市	議員	20番	鈴 木	新 助	議員
21番	大 沼	久	議員				

欠席議員（0名）

説明のため出席した者

目 黒 栄 樹 市	長	長谷部 宇 一	助 役
佐 藤 義 夫 収 入	役	平 進 介	総務課長兼選挙管理 委員会事務局長
松 本 弘 財 政 課 長		松 木 幸 嗣	企 画 調 整 課 長
中 井 晃 税 務 課 長		小 泉 良 一	市 民 課 長
船 山 祐 子 健 康 課 長		宇津木 正 紀	福 祉 事 務 所 長
高 橋 信 夫 会 計 課 長		金 田 寿 一	消 防 主 幹
飯 田 武 志 監 査 委 員		田 中 勝 男	教 育 委 員 長
大 滝 昌 利 教 育 長		安 部 嘉 徳	選 挙 管 理 委 員 会 長
小 関 秀 一 農 業 委 員 会 会 長		梅 津 和 士	農 林 課 長
那 須 宗 一 商 工 観 光 課 長		浅 野 敏 明	建 設 課 長
平 英 一 管 理 課 長		梅 津 敏 昭	文 化 生 涯 学 習 課 長
遠 藤 正 明 農 業 委 員 会 事 務 局 長		鈴 木 要 一 郎	水 道 事 業 所 長

堀 邦 夫 学 校 給 食 共 同 調 理 場 長 沼 澤 厚 子 監 査 委 員 事 務 局 長

事 務 局 職 員 出 席 者

佐 藤 仁 議 会 事 務 局 長 児 玉 行 宏 補 佐
五十嵐 恵美子 主 任 塚 田 知 広 主 事

議 事 日 程 (第 3 号)

平成17年12月9日 金曜日 午前10時00分開議

日程第 1 市政一般に関する質問

4 番 谷 口 栄 子 議 員

7 番 町 田 義 昭 議 員

2 番 内 谷 重 治 議 員

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

議事日程 (第3号) に同じ

開 議

○大沼 久議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○大沼 久議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

谷口栄子議員の質問

○大沼 久議長 それでは、順次ご指名をいたします。

初めに、順位6番、議席番号4番、谷口栄子議員。

(4番谷口栄子議員登壇)

○4番 谷口栄子議員 おはようございます。

12月定例会に当たり、通告しております3点について質問いたします。

1点目、子育て支援策について質問いたします。

公明党は、去る11月5日、全国代表者会議を契機に新しいスタートを切りました。連立政権参画6年目となり「国民のための改革」を加速させながら国会議員と地方議員が連携し、地域密着型ネットワーク政党としての活

動を質・量ともに拡大していくことを誓いました。

今後取り組む改革の柱の一つに子育てを社会の中心軸と位置づけて、社会全体で支援する「チャイルドファースト」(子供優先)社会の構築を掲げております。

出産一時金の引き上げや、乳幼児医療費の自己負担2割の対象年齢を就学前までに新たに拡充し、児童手当の支給対象も現行の小学3年生から小学6年生までに拡大されることになりました。所得制限はおおむね1,000万円までの緩和が検討されています。

地域社会に求められている子育て支援策は、まず、子育て支援の多様性を認識することが大事で、核家族化、地域社会での人間関係の希薄化、女性の社会進出、長引く不況など、現代の社会不況と価値観の多様化に伴い、子育て中の女性が抱える悩みも多様化しています。百人百様と言われる子育て中の親たちのニーズに個別に対応する子育て支援においてニーズに対応するとは、自分の時間をとりたい。病院や美容院に行くときなど、1人になりたいという悩みを抱える母親に対して、理由を問わず子供を預かる一時保育の場が必要です。

「話し相手、友達が欲しい」というゼロ歳児を持つ母親に対しては、子育て支援センターでの交流を通し、多くの人と友人になれるようアドバイスをしたり、「子供について悩みがある。子育てに自信がない」など、その他もろもろの悩みをカウンセリングできる「育児相談窓口」としての子育て支援センターが開設されております。それぞれの自治体では数多くの対応、支援策が実施されております。

また、そのために子供、子育てに関する行政窓口も一本化する動きも広がっています。窓口一本化や事業の効率化、住民のサービス